

# 省資源・廃棄物対策

廃棄物を取り巻く現状は、最終処分場の逼迫や悪質な不法投棄問題など、依然として深刻な問題を抱えています。

また、近年におけるアジア諸国等の急速な経済発展を背景に、資源・エネルギーを巡る需給が極めて逼迫している状況

のなかで、とりわけ、資源小国であるわが国において、省資源や資源の循環的利用の重要性が従来に増して高まっています。

今後、わが国の資源政策の観点からも、循環型社会形成に向けた取り組みの推進が不可欠です。

製薬協  
では

資源の節減および廃棄物の発生抑制のため自主的な目標を設定し、3R活動に取り組んでいます。

## 目標

- ① 最終処分量を2010年度までに20%まで削減する(1990年度基準)。
- ② [最終処分率] 2010年度において5%以下にする。
- ③ [発生量] 2010年度において1990年度比10%削減する。

### ① 最終処分量(図1)

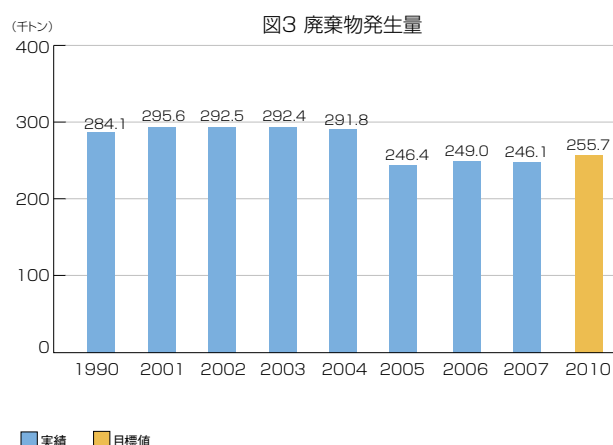
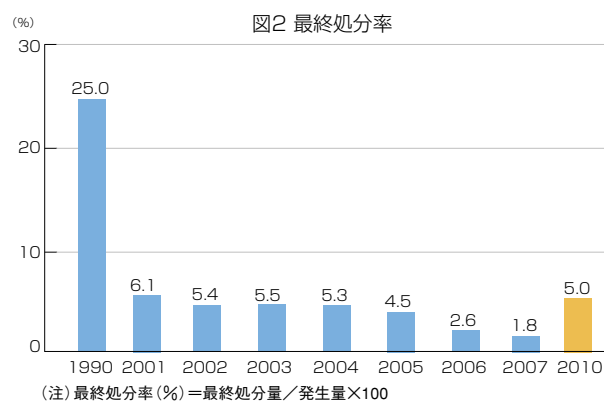
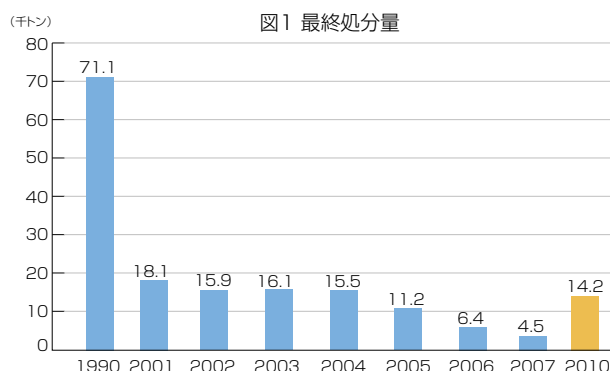
会員会社の廃棄物発生抑制や再資源化への取り組みにより最終処分量は順調に削減されており、2007年度最終処分量は4.5千トン(1990年度比6.3%)まで低下し、2005年度以降目標値を達成しています。

### ② 最終処分率(図2)

2007年度最終処分率は1.8%でした。最終処分量と同様、2005年度以降目標値を達成しています。

### ③ 廃棄物発生量(図3)

会員会社は廃棄物の発生抑制にも継続的に取り組んでいます。高齢化の進展に伴う医薬品の売上高増加にもかかわらず、廃棄物発生量は1990年以降ほぼ横ばいから低下傾向を示しています。2007年度発生量は246.1千トンで、1990年度比で13%削減となり、目標を達成しています。今後も発生抑制に取り組みます。



(注) 製薬協会会員会社70社(調査時点)を対象にアンケート調査を実施し、回答のあった66社の集計値を売上高カバー率で補正しています。2007年度実績の売上高カバー率は98.5%でした。

## TOPICS

## 3R推進功労者等厚生労働大臣賞受賞 大日本住友製薬(株)茨木工場の3Rへの取り組み

茨木工場は、大阪府北部の茨木市に1962年(昭和37年)に操業を開始した歴史ある医薬品製造工場です。2000年7月ISO14001の認証を取得し、環境マネジメントシステムを構築し活動しています。その活動の一環として、次のような3R活動を展開し、廃棄物発生量の削減を進めるとともに、2007年度にはゼロエミッションを達成しました。



大日本住友製薬 茨木工場  
岡野 清幸氏

### 1. 目標

#### ① 廃棄物発生量の削減

毎年、継続して前年度の発生量以下を達成する。

#### ② 最終処分量の削減

レベル1:1990年度比20%以下を達成する。(2006年度まで)

レベル2:ゼロエミッションを達成する。(2008年度まで)

\*当工場のゼロエミッション:最終処分量を廃棄物発生量の1%未満とする。

### 2. 取り組み内容

#### ① リデュース

ISO14001の目標と社内改善活動の融合を図り、主にグループ改善活動のテーマとして、製造工程での不良品の削減、機械調整運転効率化による廃棄包装資材の削減、原料、資材等の梱包の簡素化等に取り組み、製造工程から発生する廃棄物を削減する取り組みを継続的に実施した。

#### ② リユース

上述と同様に社内改善提案活動において、主に個人提案で従業員のアイデアを取り入れる活動を展開してきた。例えば、工場と物流センター間の製品配送において、使用するダンボールや緩衝材のリユース。また、各部署で不要となった事務用品を工場の1ヶ所に集約し、必要な部署で再利用をする等の提案を採用している。

#### ③ リサイクル

専任の担当者を配置し、工場で発生する廃棄物の種類や量を把握し、各種の廃棄物処理業者のリサイクル方法を提案しながら、継続的にリサイクルを推進してきた。紙くず、金属くず、廃プラスチック、ガラス屑と逐次進め、最後に医薬品工場の特色である、製剤くず(錠剤、散剤、注射剤等の廃棄物)について、中間処理業者にはたらきかけ、その燃え殻を溶融し路盤材にリサイクルするルートを新たに構築した。

### 3. 実績

#### ① 廃棄物発生量の削減

生産量が増加(26%)している中、廃棄物発生量は、前年実績以下を継続し、基準年(2000年度)に比べ274t(32%)を削減した。

#### ② 最終処分量の削減

リサイクルを推進することにより、最終処分量を基準年(2000年度)に比べ112t(97%)削減した。

レベル1の1990年度比20%以下の目標は2006年度に達成した。レベル2のゼロエミッションは目標より一年早い2007年度に達成した。

今回の受賞に関し、製薬協をはじめ多くの方々のご支援を賜りありがとうございました。この受賞を励みに今後も3R活動をはじめ、地球温暖化防止対策や地域社会への貢献に努めてまいります。

図1 廃棄物発生量・最終処分量の推移

